

観音山・三輪滝敗退

堀江 誠克

平成 24 年 1 月 29 日

斎藤憲一 堀江誠克

珍しく憲ちゃんから誘いを受けたので、二つ返事で ok する。6時半起床。全く準備をしてなかったので大急ぎで用意し7時半に家を出る。白河 IC で降り、待ち合わせの場所である甲子トンネルを抜けてすぐの駐車場へ車を入れる。ほどなく憲ちゃん到着。

山スキーにするか、スノーシューにするか迷ったが、谷をつめて行くので小回りのきくスノーシューにした。今朝まで降っていた雪がたっぷりと積もり、出だしから結構なラッセル(部分的に股ぐらいまで潜る。)

スピードが上がらず、体力だけが奪われていくが、我慢、我慢。冬山のラッセルは、とにかく早く諦めることだ。何とか楽したいと思っていると精神的に辛くなるだけだ。早く諦めて淡々とラッセルする。2時間半で三輪滝に到着。高さは 20m~30m、傾斜は 70°~90° まあ、楽勝だな。発見者の憲ちゃんに敬意を払ってリードを譲ろうかと思っていたのだが、トップをやらせてくれるという。ご厚意に甘えてリードさせてもらう。

氷は固めでちょっともろいが、下部は何ともなく通過。傾斜の変わるところで、スクリュエーを一本決める。水の音がする。いよいよ垂直の部分へと進んでゆくが、ピックを思いっきり突き刺した瞬間、空虚な手応えが・・・。空洞だ。ジャージャーと流れる滝の上にランプのホヤみたいなの、薄っぺらい氷のカバーがかぶさってる感じだ。さっきのスクリュ

エーは、足元のはるか下だ。怖いランナウトの末に左トラバースをしてようやく2本スクリュエーを決める。

さらに傾斜が増した氷を直上するが、氷はどんどん薄くなり、蹴り込んだ足先が氷を突き破ってしまう。それでも、できるだけ氷を壊さないようにそ〜っと登ってゆく。滝の落ち口まで 2m というところで、ついに進退極まってしまった。氷の厚さ(薄さ)はもう、2、3cmぐらいしかない。破れた穴からは中を流れる水流が十数 m 下まで落下してゆくのが見える。

もし、氷が崩れて、中に落っこちたら、滝の氷水を浴びながら宙吊りになってしまうだろう。ということで、敗退を決める。スレッドを作り、スリングを通してローダウンする。

あ〜、情けない。情けないが、よく考えてみると、あれに登れる人がいるとは思えないから、まあ、いいとしよう。荷物をまとめて退却。登りのトレースはあっという間に消えていて、またもや延々とラッセルをさせられた次はスッキリと登りたいね、憲ちゃん。



あと一歩 !!